

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	運動学演習Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	運動学演習Ⅱ
担当講師	橋本 宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>方向目標</p> <p>運動学を実践的に(再)学習することで運動学を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関節の正常な構造と機能を説明できる ・実習で得られた結果を、運動学的に解釈できる ・身体運動・動作の特徴や仕組みを説明できる ・計測手法を用いて測定できる
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の評価（実習） ・肩甲帯・肩（実習） ・手関節・手指（実習） ・随意運動の発現および姿勢・動作のメカニズム ・骨盤帯・股関節 ・膝・下腿 ・足関節・足部（実習） ・運動連鎖 ・歩行（実習）
テキスト 参考書	<p>基礎運動学 第6版：医歯薬出版株式会社</p> <p>その他：適宜必要文献</p>
評価の方法	<p>レポート</p> <p>筆記試験</p>
受講上の注意	座学・実技形式（Webにて実施する場合あり）

理学・作業療法学科2年

授業科目名	神経内科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	神経内科学Ⅱ
担当講師	田村 優加子 傳 秋光
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 医師 》
授業の目的	神経疾患各論について理解する
授業の概要	<p>田村先生担当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管障害 2. 認知症 3. 脳腫瘍 4. 外傷性脳損傷 5. 脊髄疾患 6. 変性疾患(錐体外路系を除く)脱髄疾患 7. 錐体外路系の変性疾患 8. 末梢神経障害 9. てんかん・筋疾患 10. 感染性疾患・中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患筋疾患 11. 小児神経疾患 12. 廃用症候群と誤用症候群、合併症 13. 排尿障害 14. 性機能障害 <p>医用画像：傳先生担当(2回)</p>
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 基礎専門分野 「神経内科学」 病気がみえる 脳・神経 第2版
評価の方法	定期試験による
授業の形式 受講上の注意	座学 (Webにて実施する場合もある)

理学療法・作業療法学科2年

授業科目名	精神医学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神医学 I						
担当講師	塚原健司						
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 精神保健福祉士・公認心理士 》						
授業の目的	・ OT・PT として業務を進めていく上で必要な精神医学の理解を深める。						
授業の概要	<p>1 オリエンテーション・治療的な関わりとは</p> <p>2 ICF とは・ICD-10 と DSM-V</p> <p>3 脳科学</p> <p>4 認知症 I</p> <p>5 認知症 II</p> <p>6 依存症 I</p> <p>7 依存症 II</p> <p>8 依存症 III</p> <p>9 統合失調症 I</p> <p>10 統合失調症 II</p> <p>11 統合失調症 III</p> <p>12 摂食障害</p> <p>13 予備日</p> <p>14 期末テスト対策</p> <p>15 期末テスト</p> <p>・学習の進度や状況によって変更することもあります。</p> <p>・適時 DVD や事例などの資料も利用して分かり易い講義になるように努力します。</p>						
テキスト 参考書	精神神経疾患ビジュアルブック 落合慈之監修 学研プラス 臨床につながる精神医学 渡辺雅幸 医歯薬出版						
評価の方法	<table> <tr> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td>50%</td> </tr> </table>	授業態度	20%	レポート	30%	期末テスト	50%
授業態度	20%						
レポート	30%						
期末テスト	50%						
授業の形式 受講上の注意	<p>・基本的には講義形式ですがグループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。</p> <p>・Web にて講義を行う場合もあります。</p>						

理学療法・作業療法学科 2年

授業科目名	薬理学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	薬理学
担当講師	小西恭子
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 《 薬剤師 》
授業の目的	リハビリテーションを安全に行うために、薬剤の影響は避けられません。 薬剤の影響を知るためには薬理学を学ぶ必要があります。 薬理学を学び薬の主作用・副作用を理解し、副作用を早期発見し、安全にリハビリテーションを進めていけるようになりましょう。 また、チーム医療の一員となり多職種連携の中でリハ職として薬剤に関して意見交換できるようになりましょう。
授業の概要	① 薬理学の基礎知識①第1～2章 ② 薬理学の基礎知識②第3～4章 ③ 薬理学の基礎知識③第5～6章 ④ 演習①添付文書を使って身近な薬を調べてみよう ⑤ 臨床薬理学の基礎知識 ⑥ 感染・炎症の制御と薬物療法 ⑦ 神経疾患の薬物療法 ⑧ 演習②お薬手帳を見てみよう ⑨ 精神疾患の薬物療法 ⑩ 薬剤師の仕事（薬剤師を知る） ⑪ 循環器系疾患の薬物療法 ⑫ 演習③患者さんはどんなことで困るか考えてみよう ⑬ 疼痛の制御と薬物療法 ⑭ 注意すべき頻用される薬物 ⑮ 演習④事例検討～副作用の早期発見～
テキスト 参考書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 内山靖、藤井浩美、立石雅子編 2020 医師薬出版株式会社
評価の方法	講義後の小テストで行う。 合計が60点以上を合格とする
授業の形式 受講上の注意	基本は講義形式で行う（Webにて実施する場合があります）

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	整形外科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	整形外科学Ⅱ
担当講師	高橋 欣吾・平中 孝明
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 医師 》
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節 2. 肘関節 3. 手関節及び手指 4. 股関節 5. 膝関節 6. 足関節 7. 骨折総論（救命救急を含む） 8. 骨折外傷各論（1） 9. 骨折外傷各論（2） 10. 末梢神経 11. 脊髄損傷 12. スポーツ障害 13. 手術方法について（1） 14. 手術方法について（2） 15. 定期試験
テキスト 参考書	標準整形外科学
評価の方法	試験結果による
授業の形式 受講上の注意	座学 (Webにて実施する場合あり)

作業療法学科 2 年

授業科目名	HR（亀山ゼミ）
区分	専門分野
学期、コマ	前期 12 コマ
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	HR（亀山ゼミ）	
担当講師	亀山 一義	
授業の目的		
授業の概要	QOL や self-efficacy の意味を正しく理解していますか？本ゼミでは QOL や self-efficacy を正しく理解し、ゼミメンバーの QOL や self-efficacy を高める作業を実施します。	
	第 1 回	HR-QOL を理解する。
	第 2-5 回	QOL を高める作業（ゼミメンバー）の実施
	第 6 回	self-efficacy を理解する。
	第 7-12 回	self-efficacy を高める作業の実施
テキスト	なし	
参考書		

評価の方法	なし
授業の形式 受講上の注意	第1・6回：座学 第2-5回：作業活動 第7-12回：作業活動

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	義肢装具学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	義肢装具学 I
担当講師	福本 絢哉
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 義肢装具士 》
授業の目的	義肢学の基礎を学ぶ
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義肢装具の支給体制 ・ 義肢の分類 ・ 義肢の構成要素 ・ 切断原因、切断レベル ・ 義手 (肩、上腕、前腕、手部、手指、筋電義手) ・ 下腿義足 (ソケット、足継手・足部、アライメント) ・ 大腿義足 (ソケット、膝継手、アライメント) ・ 股義足、膝義足、足根義足
テキスト 参考書	PTOT ビジュアルテキスト 義肢装具学 高田治実 羊土社
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学形式 (Web にて実施する場合があります)

作業療法学科 2 年

授業科目名	作業学演習Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業学演習Ⅱ	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①作業基盤や作業焦点の分析を実際に行うことができる。 ②病態・疾患の特徴に応じた作業分析ができる。 ③体験・観察したことを分析し、記録することができる。	
授業の概要	第 1-2 回	作業分析について <到達目標> ①作業分析とその他の分析の違いを理解できる。 ②作業に焦点を当てた分析の基礎を理解できる。
	第 3-6 回	園芸療法と分析 <到達目標> ①園芸療法について基礎を理解できる。 ②実際に園芸療法を体験し、作業として分析できる。
	第 7-11 回	作業遂行技能について学ぶ <到達目標> ①目的指向的課題とその遂行技能について基礎を理解する。 ②観察の中で作業遂行技能を観察し、記録することができる。
	第 12-14 回	作業分析と流れ <到達目標> ①面接から作業を把握できる。 ②対象者の作業を実際に観察・記録し、作業分析を完遂できる。
	第 15 回	総まとめ <到達目標> ①課題レポート等の振り返りを行うことができる。 ②学習してきた内容を復習できる。
テキスト 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「作業」って何だろう 作業科学入門 ・つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル ・準備資料（配布資料） 	
評価の方法	成果物および園芸の世話の状態、課題レポート等の合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループ演習、オンライン講義など	

授業科目名	作業療法評価法Ⅳ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法評価法Ⅳ	
担当講師	亀山 一義	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	「作業療法は評価に始まり、評価に終わる」と言われるほど作業療法評価は重要である。本講義では、対象者を理解することに不可欠な作業療法評価を理解し、実施できるようことを目的とする。	
授業の概要	第 1-3 回	<p>感覚検査 《到達目標》</p> <p>①：感覚の種類と伝導路を理解する。 ②：感覚検査の概要を理解し、説明できる。 ③：感覚検査の意義と目的を説明できる ④：感覚検査を実施できる。</p>
	第 4-5 回	<p>反射検査 《到達目標》</p> <p>①：反射の経路を理解する。 ②：腱反射，表在反射，病的反射を理解し，説明できる。 ③：反射検査を実施できる。</p>
	第 6-7 回	<p>姿勢反射検査（バランス検査を含む） 《到達目標》</p> <p>①：姿勢制御について理解する。 ②：姿勢反射検査の意義と目的を理解し，説明できる。 ③：姿勢反射検査を実施できる。</p>
	第 8 回	<p>筋緊張検査 《到達目標》</p> <p>①：異常筋緊張のメカニズムを理解する。 ②：筋緊張検査の意義と目的を理解し，説明できる。 ③：筋緊張検査を実施できる。</p>
	第 9 回	<p>協調性検査 《到達目標》</p> <p>①：協調性を定義し，説明できる。 ②：失調症を理解する。 ③：協調性検査の意義と目的を理解し，説明できる。 ④：協調性検査を実施できる。</p>
	第 10-11 回	<p>脳神経検査 《到達目標》</p> <p>①：脳神経の機能を理解する。 ②：脳神経テストの意義と目的を理解し，説明できる。 ③：脳神経検査を実施できる。</p>
	第 12 回	<p>摂食・嚥下機能検査 《到達目標》</p> <p>①：摂食・嚥下機能を理解し，説明できる。 ②：摂食・嚥下検査の意義と目的を理解し，説明できる。</p>

		③：摂食・嚥下機能検査を実施できる.
	第 13-14 回	上肢機能検査 《到達目標》 ①：上肢機能の概要を説明できる. ②：上肢機能検査の意義と目的を理解し，説明できる. ③：上肢機能検査を実施できる.
	第 15 回	テスト
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学	
評価の方法	テスト（筆記）で 60 点以上を合格とする.	
授業の形式 受講上の注意	座学および実技（場合により web での講義あり）	

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学科 2 年

授業科目名	身体障害治療学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学 I
担当講師	武田 照麻
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格 作業療法士》
授業の目的	身体障害に対する作業療法の治療原理を理解し、各疾患・障害に対する治療の実際を学習していく。
授業の概要	<p>1. 身体障害治療学概論 到達目標：身体機能作業療法の概要が理解できる。</p> <p>2. 身体機能作業療法学の基礎 到達目標：対象者に応じた身体機能作業療法ができるようになるために、治療・指導・援助の概要が理解できる。</p> <p>3. 身体機能障害の治療原理 到達目標：身体機能作業療法を実施できるようになるために、治療原理が理解できる。</p> <p>ボディメカニクス 関節可動域 筋力・筋持久力 筋緊張 不随意運動 協調運動障害 知覚再教育 廃用性症候群 物理療法</p>
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院
評価の方法	課題レポート、定期試験の総合成績
授業の形式 受講上の注意	対面講義形式(場合により Web オンラインで行う)

作業療法学科 2 年

授業科目名	身体障害治療学 I 演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学 I 演習
担当講師	武田 照麻
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格 作業療法士》
授業の目的	身体障害に対する作業療法の治療原理を理解し、各疾患・障害に対して治療の実技を学習していく。
授業の概要	<p>教育目標：身体機能作業療法を実施できるように治療原理を理解して習得する。</p> <p>行動到達目標：各治療の実技を模倣することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常作業への介入指導 2. ボディメカニクス 3. 関節稼動域の維持・拡大 4. 筋力・筋持久力の維持・増強 5. 筋緊張とその治療 6. 不随意運動とその治療 7. 協調運動障害とその治療 8. 知覚再教育 9. 廃用性症候群とその対応 10. 物理療法の基礎 11. リハビリテーション実施計画書の作成 12. 試験
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院
評価の方法	課題レポート、定期試験の総合成績
授業の形式 受講上の注意	<p>実技中心（場合により Web オンラインで行う）</p> <p>注意：服装は実習着とする。</p>

授業科目名	生活環境論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 2単位 60時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生活環境論	
担当講師	藤村忠史 小林憲人 國近敏伸	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士(藤村・小林)、作業療法士(國近) 》	
授業の目的	<p>①高齢者や障害者を取り巻く社会の状況や支援の仕組みを理解する。</p> <p>②障害の捉え方と自立支援について理解する。</p> <p>③疾患・障害別にみた福祉住環境整備の考え方を理解する。</p>	
授業の概要	第 1-10 回 担当 藤村 忠史	<p><学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者を取り巻く社会状況 ・障害のとらえ方と自立支援のあり方 <p><到達目標></p> <p>①医療保険制度と介護保険制度を理解し説明することができる。</p> <p>②地域包括ケアシステムと地域リハビリテーションについて理解し説明できる。</p>
	第 11-20 回 担当 國近 敏伸	<p><学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境整備の考え方 ・相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 <p><到達目標></p> <p>①疾患や障害の例を挙げ、それらに対する福祉用具の選定や、住環境整備のポイントを説明することができる。</p> <p>②住環境整備に伴う、関連職との連携やアセスメントの流れについて説明できる。</p>
	第 21-30 回 担当 小林 憲人	<p><学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識 ・在宅生活における福祉用具の活用 <p><到達目標></p> <p>①生活行為別にみた代表的な福祉用具について説明できる</p> <p>②基礎的な建築図面の読み方や、実践に必要な知識身に付ける。</p>
	第 30 回	福祉住環境コーディネーター級 2 検定試験
テキスト 参考書	改訂版福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト改訂6版 福祉住環境コーディネーター検定試験2級問題集(未定) 配布資料・準備資料	
評価の方法	検定試験の結果(60点未満)はレポートで合格 2級検定試験合格基準(70点以上) 試験期間 2022年7月22日(金)～8月8日(月)	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワークなど	

授業科目名	精神障害治療学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神障害治療学 I
担当講師	大谷 将之
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	①人と病いの関係性について学び、精神科作業療法を理解する。 ②精神科作業療法について、これまでの精神医療を踏まえうえで理解を深める。 ③「作業」の特性を学び、人を作業的存在として捉えることについて理解する。 ④精神科作業療法の実施するプロセスを理解する
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・人と病いについて ・病いと作業療法について ・精神科作業療法の歴史 ・作業の特性、目的と手段 ・人を作業的存在として捉える ・精神科作業療法の実施するプロセスについて
テキスト 参考書	精神障害と作業療法 第4版 精神障害領域の作業療法 作業で語る事例報告 資料配布
評価の方法	定期試験, レポート
授業の形式 受講上の注意	座学・グループワーク 復習をしっかりと行ってください。 分からないことは質問してください。

作業療法学科 2 年

授業科目名	精神障害治療学 I 演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期、1 単位、30 時間
成績評価方法	筆記試験

授業科目名	精神障害治療学 I 演習
担当講師	山本悠、西木悠衣
授業の目的	精神科医療及び精神科作業療法がどのように確立されたかを歴史や制度の変遷から知り、障害特性と課題を理解した上で、その作業療法過程と介入方法について学ぶ。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（講義概要） 2. 精神科医療と作業療法の歴史について（関連法規・制度含む） 3. 精神科作業療法について 4. 各疾患の概論、評価、作業療法について <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症 ・気分障害 ・てんかん ・パーソナリティ障害
テキスト 参考書	精神障害と作業療法 新版 三輪書店 精神疾患の理解と精神科作業療法 第 2 版 中央法規
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学およびグループワーク

作業療法学科2年

授業科目名	地域作業療法学
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	地域作業療法学		
担当講師	赤堀 将孝		
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》		
授業の目的	地域へ関わるための必要な知識を身につけ、地域で実践するための演習を通して地域包括ケアシステムのPDCAサイクルを学ぶ。		
授業の到達目標	知識としての地域包括ケアシステムを理解し、具体的な地域課題を抽出できる思考過程を経験し、行動できる技術を修得する。 地域で活動するための作業療法士の役割を理解する。		
授業の概要	第1回 4/12(専門:単)	本科目の説明と今後の流れについての説明 昨年度の取り組み、初回アンケート、課題について	
	第2回 4/19(専門:単)	社会福祉士、生活支援コーディネーターについての理解 地域包括ケアシステムについて	
	第3回 4/26(専門:合)	生活支援コーディネーターの講義と具体的ディスカッション内容の検討(関西福祉大学の社会福祉学部2年生:15名参加)	
	第4回 5/10(専門:合)	自己紹介 公園調査への準備	
	第5・6回 5/17(大学:合)	公園調査への準備 フィールドワーク	
	第7回 5/24(専門:合)	職種の理解のための紹介 公園調査資料のまとめ	
	第8・9回 5/31(大学:合)	調査資料のまとめ (追加調査)	
	第10回 6/7(専門:合)	調査資料のまとめ	
	第11・12回 6/14(大学:合)	調査資料のまとめ 発表資料の作成	
	第13回 6/21(専門:合)	発表資料の作成	
	第14回 6/28(大学:合)	調査結果発表会	
	第15回 7/5(専門:単)	全体のまとめ 終了時アンケート	
	テキスト	・なし(必要があればその都度資料配布する)	
	評価の方法	授業ごとの提出物の提出状況と最終的なプレゼンテーションが実施できること。提出状況は75点。そして、最終的なプレゼンテーションの評価で25点とする。	
	授業の形式 受講上の注意	講義と演習を混ぜて構成しています。 学外演習を実施しますが、事前に十分な説明をおこないます。 ・場合により、オンラインにて実施する。	

作業療法学科 2 年

授業科目名	日常生活活動演習 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動演習 I	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①脳血管障害と脊髄損傷のADL指導・訓練方法について理解する。 ②患者体験を通して、動作の難しさを理解する。 ③MTDLP の概要を説明できる。	
授業の概要	第 1-7 回	脳血管障害の起居動作、移動動作を理解する 《到達目標》 ①寝返り動作のADL指導が模擬症例でできる ②起き上がり動作のADL指導が模擬症例でできる ③立ち上がり動作のADL指導が模擬症例でできる ④歩行動作のADL指導が模擬症例でできる
	第 8-11 回	脊髄損傷の起居動作を理解する 《到達目標》のADL指導が模擬症例でできる ①寝返り動作のADL指導が模擬症例でできる ②起き上がり動作のADL指導が模擬症例でできる
	第 12 回	実技評価として、実技試験をおこなう 試験範囲は第 1-11 回とする
	第 13、14 回	生活行為向上マネジメントの概要を知る 《到達目標》 ①MTDLP の流れを理解できる ②作業療法士にとって MTDLP を用いる意味を説明できる
	第 15 回	定期試験として筆記試験をおこなう。 試験範囲は第 1-14 回とする
テキスト 参考書	・ADL PT・OT ビジュアルテキスト 羊土社	
評価の方法	・実技試験 70 点 ・定期試験 30 点	
授業の形式 受講上の注意	・講義と実技を行う ・場合により、オンラインにて実施する。	

作業療法学科 2 年

授業科目名	発達障害治療学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	発達障害治療学 I	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①発達障害に対する知識を深め、リハビリテーションや療育の役割を理解する。 ②発達障害児に対するリハビリテーションの評価、治療計画の作成、援助の方法などについて学ぶ。	
授業の概要	第 1 回	発達障害の概要について <到達目標> ①発達障害に対する作業療法の理念や役割などを知ることができる。 ②各リハビリテーション職種の職域を知ることができる。
	第 2 回	脳機能の発達と感覚機能、言葉の発達などについて <到達目標> ①脳の基礎を学び、脳機能と各種発達との関連を理解できる。 ②人の発達過程について学び、定型発達を理解することができる。
	第 3-4 回	自閉スペクトラム症や知的障害について <到達目標> ①自閉スペクトラム症や知的障害の概要と基礎について理解できる。 ②学童期から青年期にかけて作業療法の概要を知ることができる。
	第 5-12 回	注意欠如・多動症や限局性学習障害について <到達目標> ①注意欠如・多動症や学習障害の概要と基礎について理解できる。 ②心理的模擬体験を通して、学校や病院での場面を想定した対応を理解することができる。
	第 11-14 回	脳性麻痺や重症心身障害児及び筋ジストロフィー (DMD) 等について <到達目標> ①脳性麻痺や重症心身障害児、DMD の概要と基礎を理解できる。 ②学童期から青年期にかけて作業療法の概要を知ることができる。
	第 15 回	定期テスト (第 1 回から 14 回で学んだ内容について)
テキスト 参考書	< 必須 > ・岩崎清隆：発達障害の作業療法 基礎編 第 3 版 / 三輪書店 < 参考 > ・辛島千恵子：人間発達とライフサイクル / 理工図書	
評価の方法	レポート課題や小テスト、定期テストの得点合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など	